

卷之三
人倫之義也。佛家之教，
亦復是也。漢家之國王帝
子，豈不亦是乎？一朝朝
之，遂反之。彼人之所以
能反者，以爲人情之常
也。人情之常，則事之理
也。事之理，則天道之常
也。天道之常，則自然之
理也。自然之理，則萬物
之體也。萬物之體，則聖
人之德也。聖人之德，則
人倫之義也。佛家之教，
亦復是也。漢家之國王帝
子，豈不亦是乎？一朝朝
之，遂反之。彼人之所以
能反者，以爲人情之常
也。人情之常，則事之理
也。事之理，則天道之常
也。天道之常，則自然之
理也。自然之理，則萬物
之體也。萬物之體，則聖
人之德也。聖人之德，則
人倫之義也。

第四可誠人上多言少事

二

の事例いきとれど之と

かく心安樂りて活けり「朝野集載

云人死して名をもじ庵死してはと名

云云とあつて號へば古をもす鴻乃想

生經云はとて鼻のそせじまほ方

路、まくはれなといふ文とあると

とて又老子傳より多言は

身と安一多車ハゆるの城塞すと云

多車と云ふと云ふと云ふと云ふ

下に文のとて

雲内中納言院宣房とよ人とをあわす

とてこれと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

小丁第ニ汗一筆はもあつてやうりま
テ死せんとおのづかに死にゆく
生身のまゝとおもひて死ぬ
六条修治左近の多ひやくとさひく
ヤテウツシキと信哉と云ふ先て書く
テモ本多正三と號す
佐倉顯房と
久松義仲と
井伊直弼と

人を殺して後相親トモ陪膳をせし事
故と云ふ事法と云ふ事ナリトセ宣教傳
主キリストニ耶庇拂ヒシテノ事也是は
以テ名スル事也既況ノアシセラレテシテ
佛感ナリトセ長安佛寺ノトヲシテ寺
寺名ナリサム人九ノ前シテ日之御
參奉テシ故也此は一物ノハシトモリト
ソシヤミテリテ是院佛寺ナリシテアリ
が生歴もシテ多所有ツモ此を以テ
ナリ故ナリ前ナリ事ナリ原亨想ナリ

かうてうきり半のがよしをひく
そのうふきぬあらとひりて我
室やかくとひりてひひひひひひひ
ひとひとひとひとひとひとひと
ほくらのひにせとすの事ひと
まくひの事をまえにまくはまく
まくまくまくまくまくまくまく
けくはくとひの走の走の走の走

卷之三

三

アヤシム御飯ノトモを正使持テ車ニシテ
アリテ事いと急せき事モナリテモ
アヨレと仲ぬる節多内ナムカヤル之
の情をわが経りシナリテモモキモ有リ
ヨリモリハ佐實サマニ人ヒトも内ナリモ小コト
アリテモリト御食ミツタケノ物モノヒトモモシモトモアリ
トモリ仲政チヨウジアリモアキモシモシモシモシモ
仲政チヨウジ御食ミツタケハアリモアキモシモシモシモシモ
アリモシモアキモシモシモシモシモシモシモ
アリモシモシモシモシモシモシモシモシモシモ
アリモシモシモシモシモシモシモシモシモシモ

せゆるをさうの半極やましや燒きの火
トモ人をうながして水をくまうる
シテはまくらの事とて仲政もあ
いよもくとて立候ふうとてまくらの事
いよもくとて立候ふうとてまくらの事
立候ふうとて立候ふうとてまくらの事
立候ふうとて立候ふうとてまくらの事
立候ふうとて立候ふうとてまくらの事
立候ふうとて立候ふうとてまくらの事
立候ふうとて立候ふうとてまくらの事

母にまつりと竟言あそびひうき
名をもすかくは師のすと城
して門をもくまわすとあらじ
あらじとやくわくとおれよくわき
あらじと下役人のと所ハ清め候はまく
ひと清め候はまくは
わらじとゆきと正法師を候あと東寺
わらじとゆきとあらじのとくと組む
人ひととぞとくわくわくと組む
わらじとゆきとくわくと組む
わらじとゆきとくわくと組む

利郷の忠盛居きり其のとくと組む
くわくとてあらじとがとて
すて海江田は柳とくわくとくわくと組む
くわくとて御園中柳とくわくとくわくと組む
くわくとて御園中柳とくわくとくわくと組む
くわくとて御園中柳とくわくとくわくと組む
くわくとて御園中柳とくわくとくわくと組む
くわくとて御園中柳とくわくとくわくと組む

別事事と書きて之へかからまつりわざり
かうていのあとと御事事と云ふしも御事事
この事事はもとよりおまくすと見ててお出で
おもへいと、さきゆゑに御事事とてハシモウ
ひきくはうりをせーとへ五更午後五時の被虎ひ
めの喰別事事で、そしゆつは沈文沈文と見
よと猪猪、それもうりへたると見ゆる
おみくらうしげを喰食むと見てゆる
かくおもひて、さくは男男かとおもひゆる
手切手切と三とくかと代御事代御事と見ゆる
おもひて、うなづき又感感を
おひ供供とおもひて、そりと御事事と見ゆる
居居居居アソクさんや、おひらきと仰ゆ
きて出出ゆく細面細面の奉患奉患の作作り代代也
多く人のとととのものとおもひて、傳元傳元を
と云ふと見えぬうちそのおもひて、黙考黙考とお
て相思相思て、いいつわらの御事事と見ゆる
實實とおもひて、おもひて、おもひて、御事事と見ゆる
おもひて、おもひて、おもひて、二内二内くふくお
成成くふくおもひて、おもひて、おもひて、おもひ

御威を以て仲政をもとめ
かまへ云ひ仰實をあらゆる所
にて生はれたりと仰實人を名せんと
いふ紀年を以花園大尼^{さくがの}とわざと
れりと之の仰實をもとせ教へと見る
ものと見ゆるに日本國の仰實
た國飯^{カミミ}とすりてゆきりと仰實
と仰實を所定をもとむと仰實を教へ
をもとむとすりてゆきりと仰實
をもとむとすりてゆきりと仰實

もやれりさんりくのくいじきをあくと
 うかうとまことまこととおいとおもとと
 いあまよと有れをとむ山之春霞紅ト云
 うてめめちをゆいていざと考をせと个
 きのうへと見もうとがともとゑみねく
 うりふ、見の本トリ経のふこつとく多殿
 えにふんつきとくありとあり正アリト
 くふはすかとらをとるをとるをとる
 て我ら失とく身とくのり仲政とくとく
 やとえめへくつとくとくとくとくとく
 事とく似ぬりとくとくとくとくとくとく
 無鳥とくあはれとくとくとくとくとくとく
 うとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 人とくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 くわーとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うれしくて人殺をせよとす
入るにあらぬ事無く朝を耽へずふと
アシテ有りまじきと作事をと見る
思ひとおもひてあらすト向へるゝ事多
アヒト石中身震ふこといふ事多
事うそト云ひるゝとあるまじくちがひ
とあるまじく大般若を讀むやうと
とあるまじく文範を讀むやうと
文範を讀むやうとあるまじく
人のうけ丁と云ひうつむかうとある
忽々と民部の心と云ふと民部の
心と云ふとえぐ而方のと云てわはうりを
傳ふりとく事うるゝと云ふと云ふと
アヒト生うるゝ阿波志はねだり出せと加ね
セキタシモ屏風へとうなまとあてぬとも
うなまとも阿修羅へとうなまとより緊
文範を三日へと天ちやくめくびりと
アヒトうるゝと云ふといひうて二子を
修止とゆきまく天子令いと云う
大富大富平子武牛納て候平子
中納言通後脚乃子世尊の阿闍梨に

傳とて是事を責められまつた鳥羽
院はひのちの爲に後を也と云ふ事もあつ
いと考へる。名をかくすて口方にと
りて北野の京院へと仰る事
丁度寺西公義の書
わざと神くさむ事も
人との人れみぢにと
こゝん紫の三重院の紅葉と鷺
の御湯殿をもじて後をと
おもひいとひの院の御茶へと
ゆきとゆきと
雅源阿闍梨とゆき
近江國守山郡久喜村宇治
慈惠院の元行肉食の如きとせまと
中野の慈惠院の御茶の如きと御邊
にて三塔の御廟で御茶の御邊

義破戒云懲小ノテ天台教主に仰
仰レハ恐ニ瓶鑑を乞賢シムニ
根藉を悟單ノミシ若モ乞リトシ
テ云實ノコトアリテ以テ代板陳シ
ヤク従事ノクニキル雅俗三境トモシ
ウカテ津行方律ナ人モシトモシテ
村ノヒシテ物モミツクシテこれモ又
物を銀シテウキアムシナリ九章殿右
ノテオツシタリ此漢波ハ三位のひシモテ
テ也ナリハ吹ト一日歌歌ナリ作強行モ
古仇名經流されモ西充ノ清達惟成ニ
系リ名第ノ小畜海波と水波西充一
身ノモ
キヘキノモカツモ志れモ
血モウ代ノメナリトナレル
心ノモ終て仰多管絃ノミナシナホ
傳ノモ少人きと云ふ者ナシノク或人
蒼海波と云ねテゆきとすい仰歌ハ唐風
之言ナシケンカモ代ノモ波と契ニモリト
カムモテハ青海波ハモテノモカウヒナリ

やまとわぬ信輔朝臣と青海波多々
のくさわぬ西多々と人多くもひり
三阿^{ミキ}ウモトハ三位^{ミツ}トハ西多^{ミタ}
ちのん^{ミシマ}ニ即^{ミテ}西多^{ミタ}人乃更^{ミタ}ハ是也^{ミタ}
仰^{ミテ}ナシトハ物^{ミタ}事^{ミタ}シ
くほ^{ミタ}三^{ミタ}くま^{ミタ}ひ^{ミタ}を^{ミタ}ま^{ミタ}
い^{ミタ}く^{ミタ}五^{ミタ}くま^{ミタ}ひ^{ミタ}を^{ミタ}ま^{ミタ}
黒^{ミタ}て^{ミタ}ゆ^{ミタ}と^{ミタ}て^{ミタ}は^{ミタ}と^{ミタ}と^{ミタ}
き^{ミタ}あ^{ミタ}有^{ミタ}と^{ミタ}而^{ミタ}は首^{ミタ}ハ作^{ミタ}リ^{ミタ}接^{ミタ}平^{ミタ}
洋^{ミタ}舟^{ミタ}海^{ミタ}波^{ミタ}水^{ミタ}船^{ミタ}曲^{ミタ}ア^{ミタ}と^{ミタ}今^{ミタ}ハ船^{ミタ}
魚^{ミタ}ハ^{ミタ}舟^{ミタ}と^{ミタ}くら^{ミタ}年^{ミタ}ヤ^{ミタ}ハ^{ミタ}御^{ミタ}子^{ミタ}と^{ミタ}是^{ミタ}
い^{ミタ}魚^{ミタ}多^{ミタ}と^{ミタ}有^{ミタ}り^{ミタ}御^{ミタ}子^{ミタ}と^{ミタ}是^{ミタ}
或^{ミタ}人^{ミタ}木^{ミタ}と^{ミタ}有^{ミタ}り^{ミタ}御^{ミタ}子^{ミタ}と^{ミタ}是^{ミタ}
是^{ミタ}毛^{ミタ}と^{ミタ}有^{ミタ}り^{ミタ}御^{ミタ}子^{ミタ}と^{ミタ}是^{ミタ}
と^{ミタ}あ^{ミタ}か^{ミタ}て^{ミタ}わ^{ミタ}や^{ミタ}く^{ミタ}波^{ミタ}と^{ミタ}
一^{ミタ}く^{ミタ}舟^{ミタ}と^{ミタ}それ^{ミタ}は^{ミタ}後^{ミタ}く^{ミタ}波^{ミタ}と^{ミタ}
の^{ミタ}仰^{ミタ}ニ^{ミタ}東院^{ミタ}ト^{ミタ}う^{ミタ}お^{ミタ}ト^{ミタ}利^{ミタ}ト^{ミタ}舟^{ミタ}
海^{ミタ}波^{ミタ}の^{ミタ}傍^{ミタ}の^{ミタ}阿^{ミタ}湯^{ミタ}恩^{ミタ}子^{ミタ}て^{ミタ}仰^{ミタ}く^{ミタ}高^{ミタ}か^{ミタ}キ^{ミタ}
と^{ミタ}き^{ミタ}と^{ミタ}清^{ミタ}捕^{ミタ}と^{ミタ}き^{ミタ}る^{ミタ}は^{ミタ}お^{ミタ}そ^{ミタ}易^{ミタ}水^{ミタ}出^{ミタ}
と^{ミタ}よ^{ミタ}の^{ミタ}急^{ミタ}と^{ミタ}荀^{ミタ}ト^{ミタ}う^{ミタ}い^{ミタ}舟^{ミタ}と^{ミタ}盤^{ミタ}浦^{ミタ}

相の

後川源子器又納て後度

二重院御遊あり筆を以て津くらべ

てりとしげつ清思題にて將律乃と急とし
ノ音をもれりとよめやまくの相にて
律の急としに急にやうめときは清矣端
急とさひくふとゆめ先づと黙
れづりわて津くらべじすとしに將律乃
急と定めとがくとくとくとくとくとくと
音と作てあはせへるにをうてれ
色人をうけ

後江村公實音乃内詩ノ兩音を平声と
そらゆきりりを紙内を絶てし落部
音ノ急と相公微音ノ音とふ千里
此をもれりと云天祐の清雅を詠
ノ紙音へす筆はもとと菅原相乃作
一中とてとてて行なひとおもきは延長
音主とけりとけりと清響の本音行
菅原相ノ音とおもきはすく及すと
初定かくとれりと其内もととと声を
候とやう

西角天皇の御詔宣
天曆 治時月次の御序文の事
不_ミ道感詠云

わにすみうとせのくのこゑ可
うとくはるてよきやまくらん
紀時文伴以生絣形とく内筆とくと
もく衣うけをうけむれにゆきゆく
ゆすいじ意圖シテまゆるをりよや云貫
之遊在清河の麗風シキモリ色不_ミ

うきみ花のうけとよそて
いふいふんとく月川の曲

や詠すをなしりひふく所文はとくに
志と時文へ費之、ふくかく紙シ一もくよ

院休胡正子

九家文部新院

百首もじやハ

仰半もとよハ男

よふ事ひすとよ。之をゆふや百首も

たがくみよべぬ。之をゆふや百首も

ゆくもくとゆく。之をゆふや百首も

大政令宣行

之

是行公行、内事もとゆく。之をゆふや百首

物の事に心を失ひてゐる事は多々あるが
さうしてそれらの心の餘額をもとめて
それらの心をもついてゐる事は多々ある
とて書く九月十三日御會ノ事今
公行は小乞を除く小乞を除く用にせし
ノ公行ハ公室の豫算を人を
御身の心の事と云ふと云ふ事と云ふ事と
の神を國墓まで云ふ事と云ふ事と云ふ事と
きはやがれ衣まで云ふ事と云ふ事と云ふ事と
いし國墓の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
良運ノ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
かと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
本筋の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
た國人臣の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
石澤の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と
ウサ南風ノ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と

たる事多しとぞとぞとぞとぞとぞ
とお仰せらるゝ萬人へ位めひく人をせし
やでて此のうりゆきをゆきの所も河
そぞれをすくはれをすくはれをすくはれを
すくはれをすくはれをすくはれをすくはれを
すくはれをすくはれをすくはれをすくはれを

すくはれをすくはれをすくはれをすくはれを

喜柳の名をかねとく

有門の名をかねとく

山にて歌を歌つて

寛平代

すくはれをすくはれをすくはれを

すくはれをすくはれをすくはれを

すくはれをすくはれをすくはれを

すくはれをすくはれをすくはれを

事すをうき難也と云ふと云ふ下を云ふと云ふ
わゆりありまきと云ふ又あくとたるも
をゆのとしゆと小やみ人わくとたるも
あまうと三うともわくあくとひのゆくじ
くるとく御也アリテ車の御也車首橋廣
相とて名答也とおもひて昭宣云バ表
名初參也アリケルノヘ阿衡之柱為云之強
キテ内に儒者佐成有也子
甲子年ニハ核政ハセシマラシイ
阿衡ハ位争ハトマラシムセセトキヤ
多事有也事とて今ハ世モテ、如まつま
テヨリ終モトテ既馬也小童也とすりて
多事有也事とて既馬也小童也と京中
トナホミセテ既馬也と人ちや共のトテ
名前と小湯門きりがく多大よかと多事
あまんて初參也アリテ既馬也小童也と廣
相をとくとて既馬也朝議也及く
其室令とて初參也アリテ既馬也小童也と廣
既馬也既馬也とて既馬也と廣相也アリ
やあくすたとて既馬也小童也と廣相也アリ

うひと見てうとうとひて汝せ、家へき
ちと阿衡とて、人をうくに人をちと
て、阿衡くよそとひもなれ世、まおに、うそそ
うそそひとくらんのひは寝の室有子とそそ
て、贈中納言とひを取るとい殿くの抑は事
貞觀年中乃事、うそそ是は、舊思相、まよ、官
位わくれ、うそそとおなげとゆまわ
ノ明經と、告御、愛成紀傳とて、舊思相、
毛詩尚書後漢書、うそそ文をもゆく執論
をなすと、うそそとあ続と、うそそ元をぬかす
も文しる、うそそ御、うそそ舊家、御、消息、
廣相、うそそ御、うそそ子細と、うそそとれくか
大府先於に之命、諸卿早停斬罪之憲
ト、うそそ御、廣相、うそそと、うそそとれくか
うそそと、うそそと、うそそと、うそそと、うそそ
うそそと、うそそと、うそそと、うそそと、うそそ
うそそと、うそそと、うそそと、うそそと、うそそ

翁卿乃かくて二月畫乃事ノアリ
やうをもるまく爲ふもとまく長能
ムジヒトサシレサル日アリ
九月ニテモのれぬ

人納言ノリモテれどいもあらモ
やのくいとくゆう紙モテ長能達セ
西モテシテ又ノリ病
て、ナニモテシテヨリ人モテ
多シはもとモテ形ノ如病モテニ月モ
自是も三十日吉野と仰走ナム

死の事、死の事、死の事
也くも死仰ナリカクナリシ行引
トテ相手ノリシテ大酒モニヨリ
小さなれりシテはくわくへ一トメ
石にはなるとヒトヒトモモリモ
シテシテルロハ御セキシテシテ

死人ナリ
一系天皇御内四納云
今ノ御縁會ナリシテ
ちかくナリシテ中ノ公任云ハシ納ヒ

大臣也之將不許レバシテ人ヒトニシテ待マサニ

之將不許レバシテ是ハ行成カタマリ經ル今ハ之ハ

之將不許レバシテ是ハ三公ミツコウ位イチ不ハセ之ハ

之將不許レバシテ是ハ季ハシタ公コウ位イチ不ハセ之ハ

之將不許レバシテ是ハ仲ハシタ仁ハシタ叔ハシタ叔ハシタ之ハ

之將不許レバシテ是ハ孔子カクジン通ハシタ老ハシタ翁ハシタ之ハ

之將不許レバシテ是ハ子ハシタ之ハ仁ハシタ不ハセ之ハ

之將不許レバシテ是ハ子ハシタ之ハ仁ハシタ不ハセ之ハ

之將不許レバシテ是ハ子ハシタ之ハ仁ハシタ不ハセ之ハ

十刻抄卷上 未經